

有機農業を含む環境創造型農業推進施策検討会に係る 意見聴取会(概要)

開催日時 令和5年12月13日(水) 15:15～16:45

会場 ニンニクほ場・加工場 (株)AgLiBright) 及び多可町役場

出席者 【農業者】 福本憲人氏、藤岡啓志郎氏、辻朋子氏

【検討会】 辻村委員長 【県】 服部副知事、農林水産部長等

【多可町】 吉田町長、佐藤副町長、産業振興課長

【県議会】 内藤議長、村岡農政常任委員長



ニンニク栽培ほ場



黒ニンニク加工場（匂いがきつ
いので、入口から覗く程度で）



意見を聞いた農業者3名



意見聴取会場



参加者集合写真

有機農業を含む環境創造型農業推進施策検討会に係る意見聴取会

<参加農業者プロフィール①>

ふくもと よしと

福本 憲人 氏(坂本宮農組合 組合長)

昭和35年から酒造メーカー(株)福光屋(金沢市)と契約栽培。平成17年に福光屋の販売戦略(欧州進出)による要望を受け、翌年から有機栽培も開始。平成20年からは、有機JAS米の認定を受け、県下でも坂本の山田錦は良質米として高い評価を受ける。



<栽培品目> 水稻(山田錦)7ha(うち有機JAS認定2ha)、大豆3ha、野菜など

<加工品> 純米大吟醸「さかもと」、山田錦うどん、黒にんにく酒

【発言骨子】

技術	<ul style="list-style-type: none">○ <u>有機の酒米は酒蔵の需要があってはじめて生産できる</u>○ 組合員が自分の農地をそれぞれ管理しており、各自の栽培方法で有機農業に取り組んでいる○ 水稻の有機栽培は雑草対策につきる
経営	<ul style="list-style-type: none">○ 輸出向け商品を企画する酒蔵(福光屋)からの注文に応じてJAS有機山田錦を生産(有機山田錦は最大3ha。オーダーの減少等により現在は2ha)○ 酒蔵の要望に集落ぐるみで応え、誇りをもって生産したい

有機農業を含む環境創造型農業推進施策検討会に係る意見聴取会

<参加農業者プロフィール②>

ふじおか けいしろう

藤岡 啓志郎 氏((株)AgLiBright 代表取締役)

人を健康にしたいと製薬会社への就職を考え大学院へ進学。勉強するうちに予防医学に興味を抱き、病気を未然に防ぐ身体づくりが大事と考え、大学院を中退し実家の農業を継ぐと決心。19か月のアメリカ農業研修の後に帰国し、即就農。4か月後に(株)AgLiBrightを設立。



<栽培品目> ニンニク4.7ha(うち有機JAS認証2ha、無農薬2.7ha)、黒大豆(丹波黒) 6.4ha
酒米(山田錦) 6ha (うち有機JAS認証1ha、特別栽培5ha)、主食用・米粉用

<加工品> 熟成黒にんにく「黒葫玉(こっこおう)」、米粉を菓子原材料として菓子店へ提供

【発言骨子】

技術	<ul style="list-style-type: none">○ 有機農業は地域の理解が大切(コミュニケーションを取ることが重要)○ <u>有機と慣行農業は対立するものではなくバランスが大切。慣行農業は環境創造型農業を推進</u>○ 生育状況に応じた適切な管理作業が重要な農法で、基礎技術の習得が重要
経営	<ul style="list-style-type: none">○ <u>有機農業は環境負荷低減を付加価値にする経営戦略として非常に有効</u>○ <u>有機JASの要・不要等価値の共有によりコストに見合う価格での取引が実現。トレンドだけで取り扱う事業者とは長続きしない</u>○ 商取引であり品質や量、価格の実現など、経営には一定の栽培規模が必要

<参加農業者プロフィール③>

つじ ともこ
辻 朋子 氏 (農園若づる 代表)

実家が京都の造り酒屋であったこともあり、自分で育てた山田錦でお酒をつくる目的を持ち2020年に多可町に移住、新規就農。山田錦をアルファ化米粉に加工し、湯で溶くと粥に似た食感になることに着目。α化米粉の「介護食」への活用を提案し「農業女子アワード2022」で最優秀賞の「ベストウーマン賞」受賞。



<栽培品目> 環境保全型のお米栽培 (80a全て無農薬無化学肥料栽培。一部有機JAS認証)

<加工品> 山田錦の米粉を県内外のパン・洋菓子事業者に提供。α化米粉「すぐ、おかいさん」

【発言骨子】

技術	<ul style="list-style-type: none">○ <u>小規模生産者は規模に応じた販売先の確保が必要、地域内で利用して支え合う仕組みが必要</u>○ 有機農業は自然の力を活かす農業と認識、地域資源や緑肥で土づくりに取り組んでいる○ 慣行農業を否定するものではなく、慣行農業から学ぶことは多い
経営	<ul style="list-style-type: none">○ 有機農産物の価値を共有し、生産者の物語や価値を理解してくれる相手と取引○ 地域ごとの地形や環境に応じた農業のあり方が求められるため、観察し、試行錯誤を繰り返し技術を確立する

<主な質疑応答>

Q) 消費者は有機農業を勘違いしているという話が出たが、どう勘違いしているのか。

A) 藤岡 有機農業と慣行農業のバランスが重要であり、有機は身体に良い、慣行は身体に悪いと思っている人が多いが、そうではない。農地を守って行くには慣行農業が必要で、慣行農業では環境創造型農業を推進すべき。

Q) 有機農業に関する指導や教育について望むものは何か。

A) 福本 一番必須なのは後継者の育成。今の人はほ場に入って草取りする事は多分やらない。草が生える前に抑える方法を考えないといけない。例えば紙マルチ等。

A) 藤岡 ぼかし肥料作って土づくりする今の有機農業の指導方法では大規模化は不可能に近い。その土地にあった栽培方法を試行錯誤する必要があるため、農業技術の基礎をしっかりと学び、+αの応用として有機を学ぶのが良い。

A) 辻 移住者はほとんどの人が有機志向。

Q) 有機JAS認証を取得する意義は何か。

A) 藤岡・辻 取引上の信用材料として取得。

A) 福本 酒蔵の要望に応えるために取得。



ニンニク栽培ほ場



意見聴取会